

川の子ども新聞



四万川ダム探検隊

発見、探検！お城のような美しいダム

「四万温泉の奥に、お城みたいなダムがある」という情報をゲット！興味シンシン、勇気リンリン。7人の探検隊が現地を訪ねたよ。



- 四万川ダム探検隊の子ども記者**
- 右から
 - 横堀 晴香さん (太田市立宝泉小5年)
 - 市川 歩実さん (前橋市立細井小5年)
 - 鹿子島 穂波さん (高崎市立堤ケ岡小5年)
 - 山岸 結女さん (太田市立沢野小6年)
 - 鴻巣 拓郎くん (高崎市立新町第一小6年)
 - 諸岡 貴輝くん (高崎市立佐野小5年)
 - 小林 大介くん (伊勢崎市立茂呂小5年)

「お城みたいな...って、どーゆーこと?」「おとき話に出てくるような?」「それとも『要塞』みたいな感じ?」

メルヘンチックな西洋のお城

四万川ダムのデータ

所在地 = 中之条町
 完成した年 = 1999(平成11)年
 形式 = 重力式コンクリートダム
 ダムの高さ = 89.5m
 ダムの長さ = 330m



四万温泉
 中之条町・高崎市へ

「お城のような美しい姿は、まわりの自然環境を考え、しかもたくさん訪れて楽しめるようにデザインされたものなんだね。」

「地域に開かれたダム」というのは、自然環境を大切にしながら、たくさんの人たちが休憩やレクリエーションなどに使えるよう、ダム湖やその周辺を整備したダムのこと。国土交通省の指定を受けて、地元の人たちの要望を聞きながら整備を進めているんだ。

四万川ダムは、上信越高原国立公園の中にあり、近くに四万温泉がある。お城のような美しい姿は、まわりの自然環境を考え、しかもたくさん訪れて楽しめるようにデザインされたものなんだね。

さらに、湖畔のダム資料館「四万せせらぎ資料館」と、その中にある日帰り温泉「こしきの湯」もお楽しみ。

去年(4月から11月まで)は約1万4千人というたくさんの方が四万川ダムを訪れたそうだよ。



公園内の噴水のあるステージ

「お城みたいな積み上げたような城壁(?)、見張り塔みたいなものまである!まるで中世の西洋のお城が時間と空間を超えてあらわれたよう。ウワサはホントだったんだ。」

「...といっても、もちろん、お城ではない。今回、探検隊が訪れた。」



奥四万の山の中にダム発見! ホントにお城みたい

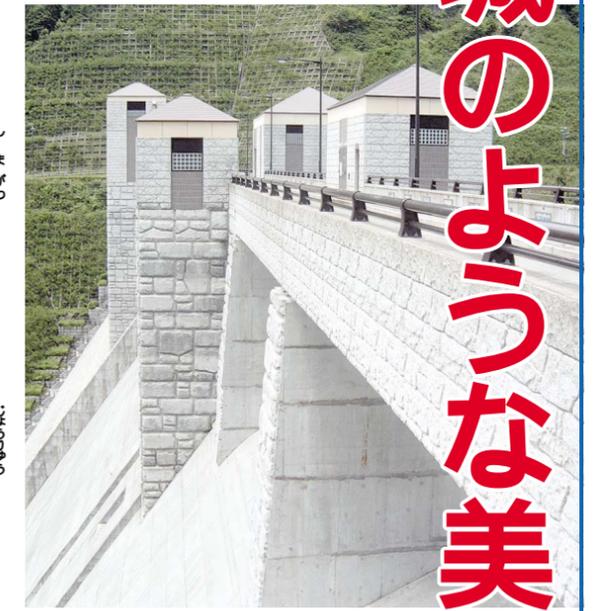
地域の人々に開かれたダム

「地域に開かれたダム」というのは、自然環境を大切にしながら、たくさんの人たちが休憩やレクリエーションなどに使えるよう、ダム湖やその周辺を整備したダムのこと。国土交通省の指定を受けて、地元の人たちの要望を聞きながら整備を進めているんだ。

四万川ダムは、上信越高原国立公園の中にあり、近くに四万温泉がある。お城のような美しい姿は、まわりの自然環境を考え、しかもたくさん訪れて楽しめるようにデザインされたものなんだね。



ダムの上から見おろすと、とてもすてきな日向見公園



「地域に開かれたダム」としての四万川ダムの特徴は、お城のようなデザインだけじゃない。ダムの真下を見ると、おっ!きれいな公園があるぞ。下においてみれば、芝生広場に噴水のあるステージ。自然の中で楽しいイベントができそう。土手の遊歩道を歩くと四万川の河原へ。みんなであつと水遊びもしたね。この「日向見公園」のほかに、ダム湖のまわりには「梅の広場」「赤沢やすらぎ広場」「稲包せせらぎ公園」と、ぜんぶで4つも公園や広場があるんだ。

さらに、湖畔のダム資料館「四万せせらぎ資料館」と、その中にある日帰り温泉「こしきの湯」もお楽しみ。

去年(4月から11月まで)は約1万4千人というたくさんの方が四万川ダムを訪れたそうだよ。

四万川ダム探検隊



管理事務所の制御室で、四万川ダムのはたらきについて神道さんからお話を聞く。みんなシンケン!

洪水防いだり発電したり

四万川ダムの本来の役割についてもしつかり勉強したよ。管理事務所の中で「四万川ダム教室」。先生の神道さんは、いちばん大切な目的から説明してくれた。それは「洪水調節」ということ。四万川の川沿いには四万温泉の旅館街がある。下流には中之条町の市街地もある。台風による大雨などで、これまで四万川は何度も洪水の被害を出していたんだ。そこで、上流で水をせきとめて、洪水から人びと



天気によって青や緑などに色が変わる奥四万湖

生活を守るために四万川ダムがつけられたという

わけだね。

そのほか、中之条町や太田市などへ「水道用水の供給」をしたり、ためた水を有効に使ってダム直下の日向見発電所で放流しながら「発電」をおこなったりしている。

ということで、四万川ダムも、これまで「川の子ども新聞」に登場したダムの多くと同じように「多目的ダム」というわけだね。

制御室には大きなパネル

勉強のあとは見学！ まず管理事務所の中の「制御室」へ。

大きなパネルに、四万川ダムや四万川などの地図、そこにデジタルの数字が表示されているけど、これ、なあに？

お話をうかがうと、このパネルでダムと流域のようすがリアルタイムにわかるんだって。「ダムにどのくらい水がたまっていくか」「上流でどのくらい雨がふっているか」「下流の水位はどのくらいか」など、いろいろな情報をキャッチしながら、ダムを操作しているわけだね。



ダムコン(ダム放流制御装置)を見学

ダムの下流のようすをテレビモニターで見るともできた。これは、とくにダムからたくさん水を放流するとき、下流に人がいないかどうか安全を確認するためのもの。とても大切な装置なんだね。

ダムと川流域の「健康」を管理

次に、ダム堤体の中をいちばん深いところまで案内してもらった。

ひんやりすずしい「監査廊」の中を歩くと、いろいろな「計器」があるのを発見!

「ダム堤体のわずかな「かたむき」はどのくらいか」「漏水」の量はどのくらいか」など、いろいろなことを調べて、ダムの「健康診断」をしているわけだね。



ダムのいちばん底まで、さあ、探検!

そして、もうひとつ。

ダムの天端(てんぱ)は「ダム堤体の上部」で「表面取水設備」も見学した。じつは、お城の塔のようなもののひとつは、この表面取水設備だったんだ。

表面取水というのは、もしもダム湖の底のほうの冷たい水を下流に流すと、川の生きものや水田の稲などに悪い影響をあたえてしまうので、表面近くの水を流すというもの。



ダム堤体のかたむき(たわみ)を調べるブルムライン

四万川ダムの場合、ダム上流の水の温度とほぼ同じということで、表面から2・2メートル下の水を流している。これは「川と流域の健康のため」というわけ。ダムの水を流すときは、こんな工夫もしているんだね。



ダムの天端で「表面取水設備」も見学した

探検隊員からひとこと

穂波さん「とてもきれいなダムでびっくり! ダムのこともいろいろ勉強になった」

大介くん「ダムは洪水をおさえるだけじゃなく、いろいろな仕組みがあることがわかった」

歩実さん「公園があつて、水遊びができた!。ダムってそういうことも大事だと思って」

拓郎くん「ダムの中の探検がとってもためになった。ひんやりして気持ちよかった」

結女さん「水のこと、ダムのこと、未来のために大事だなんてあらためて思った」

貴輝くん「いままで知っていた以上に、ダムの仕組みがくわしくわかった」

晴香さん「ダムの中にはいろんなものがあるんだなって思った。ダムって、すごい!」



ちょうど放流をしていた中之条ダム

中之条ダムは、四万川ダムの約8キロメートル下流にあるアーチ式コンクリートダム。四万川ダムと同じく県が管理している。上流からの土石流をくいとめる「砂防」の役割もはたしているんだよ。

夏休みの楽しいお知らせ! 四万川ダムで夏祭り

とっておきのコース! 夏休み中の7月30日(日)、四万川ダムで「奥四万湖夏祭り」が開かれるんだ。

ダムが完成して初めての夏をむかえた2000(平成12)年から毎年おこなわれていて、今年で7回目。日向見公園をメイン会場にダムと発電所の見学会「マスのつかみ取り」「親子の木工広場」など、楽しいイベントが予定されているよ。ことは、なんと「シン鍋大会」もあるんだって。

家の人といっしょに出かけてみよう。

お問い合わせ

中之条土木事務所

TEL 0279-753047

四万川ダム管理事務所

TEL 0279-704021

